

第 1859 回例会報告

令和 7 年 2 月 20 日(木)晴

◇会長告知◇会長 太田 淳也



皆さん、こんにちは。
今日の例会は「会員の健康診断」という事で、まだまだ寒さが続いて、春の気配は感じる事ができませんが、会員の皆様には、しっかり体調管理をして頂きたいと切に思っております。
今日は私の職業柄、一年間の中でも、この寒い冬の季節というのが、この諏訪地域だけでなく、世界的にも冬にお亡くなりになる方が多いという話をさせて頂きたいと思

います。イギリスの「英国国家統計局(ONS)」のデータや、アメリカのボストン大学のパトリック教授のお話しによると、冬にお亡くなりになる方は、他の季節より 8%~17.5%も世界的にみても多いことが科学者達の研究でわかってきたそうです。
完全な答えはまだ解明中であるそうですが、理由としてまず、冬に死者が増える原因として「季節性ウイルス」の流行が挙げられるそうです。季節性ウイルスは世界中で冬にピークを迎えるからだそうです。そしてもう一つの理由として、寒さによるストレスでの血管などの循環器系に与える影響により、世界的にも冬にお亡くなりになる方が多くなってるそうです。
また、ハワイのような一年中暖かいところでも、冬に亡くなる方が多いというのが、調査した結果わかったそうです。これは、寒い地域の人達は、十分な暖房、優れた断熱、外出時の防寒などの寒さへの備えが充分できているのに対し、ハワイのような暖かい国に暮らしている人達は、家が冷えやすく、暖をとる手段が少ないため、寒さの影響を直接受けてしまうからではないか？と考えられているそうです。
私達は、昔から寒さには慣れてるとはいえ、この諏訪地域に於いても冬にお亡くなりになる方はどうしても多くなってしまいますので、まだまだ寒さは続きますので、会員の皆様とご家族の皆様は寒暖差に気をつけて元気に今冬をお過ごし頂きたいと思

◇幹事報告◇幹事 小笠原 仁

【報告事項】

1. 先日、皆様に頂いた募金、35,816円を骨髄バンク長野ひまわりの会の笠原様へお渡しいたしました。御礼のお菓子を頂きましたので、皆様にお配り致しました。

【連絡事項】

1. 大阪で3/22に行われる全国ローターアクト研修会の案内を回覧いたします。参加希望の方は、今週中に事務局へご連絡をお願い致します。
2. 現在、当クラブからのカルガリー国際大会への出席登録

3. 来週 2/27 は、祝日がある週のため休会です。次回の通常例会は、3/6 となります。
4. 令和 6 年 10 月 2 日(水)、更生保護制度施行75周年記念全国大会における顕彰式典で、諏訪湖ロータリークラブ 小林聖仁会員に「瀬戸山賞」が贈呈されました。つきましては、ご案内は追ってお送りしますが、3月13日18:30よりマリオにて、お祝いの会を行います。ぜひご予定を空けておいて下さい。

【受領文書】2023-24 事業報告書、信州環境パートナーシップだより たまき、ハイライトよねやま、日台ロータリー親善会議札幌大会のご案内、オンラインオープン例会のご案内、IM を欠席された方のレターボックスに、IM の資料をお配りしました

【出席報告とニコボックス】

出席報告		ニコニコボックス	
		利用人数	今回の金額
会員数	31人	9人	23,000円
出席対象	30人		
出席者数	19人	前回累計	483,000円
出席率	63.3%	累計	506,000円
前回修正出席数	人	目標額	60万円
前回修正出席率	%	達成率	84.3%



我家の主治医であります平山先生の40年のロータリーライフと人生感の卓話を聞きにきました。 大澤 邦彦
平山さん！本当は、僕らを置いていかないで！！

(お名前なし)

本日は健康診断お疲れさまでした。 小笠原 仁
私の中では平山先生は、He profits most who seves best です。お話楽しみにしています。よろしく願います。

宮坂 英貴

◇誕生祝◇

81歳になられた
高林一紀会員



◇RI 委員委嘱状◇

地区からの RI 委員委嘱状をお渡し致しました。



例会前に、小笠原仁会員による健康診断が行われました



◇例会内容◇

職業奉仕委員会担当例会 「40年間のロータリー生活を振り返って」

平山 隆 勇

私の会員としての自己評価は特に初期のころは最低です。幹事になったのも、会長になったのも遅く、特に最初の10年位は遅刻、早退、休会も目立ち、

「よく退会させられなかったものだ」と思います。そんな見本にはいけないロータリアンの私ですが、ロータリー独特の『職業奉仕』という概念を次第に大切に思うようになり、それを意識した自分の職業や医師会の役割を果たしてきました。しかし、国際ロータリーの方針が21世紀に入った頃から変化しているように感じていました。それは次第に明確となりましたが、日本では職業奉仕はまだ「ロータリーの根幹」として扱われてきました。シェルドンの奉仕理念こそ職業奉仕だと主張する田中 毅さん(2680地区パストガバナー)を第18期(大澤邦彦会長)の時開催された諏訪グループのIMの基調講演に田中さんにお招きしました。又第19期(小林強会長)にも当クラブの職業奉仕委員会にお迎えして職業奉仕について語って頂きました。しかし会長を務めさせていただいた後位から、ロータリーの職業奉仕に対する考え方が、日本でも変わりつつあることを次第に感じるようになりました。

先日IMに参加し、本田博己さんの会員セミナーを拝聴しましたが、本田さんは「職業奉仕はロータリーの根幹か?」という古株のロータリアンにとって、かなり挑発的な寄稿文をロータリーの友2017年1月号に載せたことで注目を浴びました。それよりもっと前、私が諏訪湖RC会長をさせて頂いた2013年頃から、本田さんは『職業奉仕』についてのご自分の考えを発信されていました。

それを偶然みつけた私は、職業奉仕についてももう少し考えてみようと思い多少勉強しました。そして2015年位から諏訪湖RCの新会員セミナーや職業奉仕の担当例会、そして諏訪グループの新会員セミナー等で、本田さんのことを「こんな考えの人もいます」と何度か紹介しました。本田さんは日本のロータリアンが、『職業奉仕』を大切に思う余り、世界のロータリーの潮流とかけ離れた職業奉仕観を持っていることを「ガラパゴス化」という印象的な言葉で表現されました。本田さんの非凡なところは、人の興味をそそるタイ

トルと、従来の職業奉仕観を大切にしている会員の反発をうまく和らげる言い方をするとところです。例えば、「私は、かつて四大奉仕の中でも『職業奉仕』は他の奉仕部門の上位概念のようなものではないかと思っていました(要約)」という言葉で語り始めるのですが、最後に、ロータリーの根幹は「職業奉仕」ではなく、世界共通の言葉『奉仕の理念』という言葉でロータリーの理念について議論を深めていこうではありませんかという結論に至るのです。

先日のIMでの本田さんがお話した内容を私なりに要約をしてみますと、皆さんは職業奉仕を難しいものと思いませんか?皆さんの今している活動、実はそれ職業奉仕かもしれません。(ロータリーの友2024年1月号)『職業奉仕』というのはシンプルに『奉仕の理念』の職業への適用だということです。それは他人のことを思いやり、他人の助けになることです。初期のロータリーではシェルドンがサービスについていろいろと論じていますが、これは儲かるためなら手段を選ばないという商売がまかり通っていた時代における正しいビジネス上のサービス(奉仕)でありました。活動分野が広がった現在のロータリーでは、ロータリアンの中心的行動原理であるサービスは、もっと広い意味で使われるようになっていきます。現代ロータリーにおけるサービスの意味は「人々の助けになること」「社会の役に立つこと」「世のため人のために尽くすこと」と考えて良いと思います。というものでした。

一方、私たちに大きな影響を与えた田中 毅さん2年前(88歳時)の講演で、「一人一業種」により、自分に貸与された職業を通じて、社会に奉仕する『職業奉仕』を守っていくことが大切です。昨今のRIは「職業分類制度」を廃止し、職業分類という概念すら消し去ろうとしております。かろうじて『最もよく奉仕する者、最も多く報いられる』というモットーのみが残っておりますが、これも風前の灯火であります』と危機感を訴えておられます。

しかし、本田さんのお考えの様に、ロータリアンが長年かけて作り上げた『奉仕の理念』で職業を営むこと、また、その『奉仕の理念』を社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕活動に向けること、これが現在のロータリーでは正解なのかという方向に傾きつつある自分と、過去において私たちが拠り所とした『職業奉仕』の火も消さないで欲しいとも思っている矛盾した自分もいます。今までロータリーは多くの対立を乗り越え、お互いの主張を取り入れ(友愛の精神か)、上手にバランスをとりながら『奉仕の理念』を深化させ、成長してきた歴史があります。この賢い方針を今後も継続していくことが、ロータリーの発展に必要なというのがIMの講演を聞いての感想でした。

最後に最近感じたうれしかったこと:クラブ奉仕委員会のメンバーが企画したクリスマス例会に招待した、つつじが丘学園の子供さんたちが、叔父さん達ばかり目立つパーティーで楽しんでもらったことを、施設長の川瀬先生から後の例会でお聞きできたことです。これはクリスマス例会に参加された会員の皆さん其々が、子供たちに温かい眼差しを向け、優しく接して下さったからだだと思います。小林聖仁さんのことを子供たちが良く覚えていたのもその一例だと思います。皆さんが力を併せて、人(この場合は子供たち)を喜ばせたことは、正に『奉仕の理念』を十分発揮したからではないでしょうか。各ロータリアンが自然体で『奉仕の理念』を湧き出させることができる諏訪湖RCの素晴らしさは、今後クラブ発展を大いに期待させるものだと思います。(実際にお話しした内容を短くまとめるため、省略と表現を変更した部分があります。)